

ハロー香港（Hello Hong Kong）キャンペーンスタート

香港政府観光局

香港政府観光局は、今年の2月に「ハロー香港（Hello Hong Kong）」キャンペーンを全世界規模でスタートすることを発表しました。香港から世界へ「ハロー」のご挨拶の意味を込めたこのキャンペーンには、昨年末に香港への入境制限が解除され、再び活気を取り戻した香港の、「世界中からの旅行客を温かくお迎えしたい」という熱い思いが込められています。

キャンペーンの目玉の一つが、総計50万枚の香港行き往復無料航空券です。3月の東南アジア発を皮切りに申込みが始まり、大変な好評を博しています。「ハロー香港」を支援する形で香港国際空港が実施するこの無料航空券キャンペーンは、日本においては5月以降のしかるべきタイミングで発表されることになっています。

この「ハロー香港」キャンペーンでは、日本から香港に対して「早く会いたかった」という気持ちも表現しています。中学時代を香港で過ごした藤森慎吾さんや、ソーシャルメディアで多くのフォロワーを持つ複数の旅行系インフルエンサーをお招きし、香港への「ハロー」を込めて、日本からの香港旅行を促すプロモーション動画を各種制作し公開しています。これらを含め、香港の魅力伝える様々な動画が、全世界の約3,000の媒体で放映されています。

コロナ禍にあっても、香港では大規模プロジェクトが進行していました。特に注目すべきは西九龍（ウエストカオロン）文化地区です。アジア初となる世界最大規模の現代ヴィジュアル・カルチャー美術館「M+（エムプラス）」が一昨年11月に、また中華文化の至宝を展示する大規模博物館「香港故

宮文化博物館」が昨年7月にオープンしました。

この他にも、香港で最初の生鮮市場だった歴史ある建物を全面改装し、数多くのショップや飲食店が入居する形で一昨年7月にオープンした中環街市（セントラルマーケット）、天井に窓がある大型の新車体と全面刷新された駅を備えて昨年8月に営業を再開したピーク・トラム、またオーシャンパークに隣接しアジア初の通年営業型全天候ウォーターパークとして一昨年9月にオープンした「ウォーターワールド」、さらには香港ディズニーランドの新しいナイトショー「モーメントス」も見逃せません。

ますます目が離せない香港を一日も早く訪れてみてください。新しい発見が、皆様をお待ちしています。



ウエストカオロン文化地区（©香港政府観光局）

2023年5月発行（禁無断転載）

目次

ハロー香港（Hello Hong Kong）キャンペーンスタート.....1	令和5年度総会開催.....9
各界で活躍する香港日本人学校OB・OG 第1回.....2	中 京：香港街市(3)雑記帳.....10
香港映画界に訪れたのは「小陽春」か？ それとも春か？.....4	九 州：ウイズコロナの香港～アウトバウンドの復活と香港域内の変化～...11
私と香港ビジネス.....5	山 形：スモッチ 香港への輸出に向けたチャレンジ！.....12
Hong Kong is back! 香港ジュエリーショーが大盛況.....6	北海道：アフターコロナへの期待.....13
連合会・各協会便り	宮 城：学生部による「香港宮城交流会」を開催（11月～3月）.....14
全 国：香港経済貿易代表部が春節レセプション2023を東京で開催...7	沖 縄：春節 役員昼食会・セミナー2023開催
東 京：第22回NPO法人日本香港協会総会	香港・沖縄の観光客の動向について.....15
第17期CMMS「華人経営研究」講座修了報告.....8	広 島：「買取保証型テストマーケティング」事業について.....16
関 西：女性が活躍する香港、活躍する協会女性会員	新 潟：コロナ後のインバウンドにおける香港市場の現状と未来.....17
チャイニーズ・ニュー・イヤーズ・パーティー開催	高 知：積極的な活動の1年に.....18

各界で活躍する香港日本人学校OB・OG 第1回

かつて香港日本人学校に通ったOB・OGで、現在第一線で活躍する方々に、香港の思い出と現在の仕事についてうかがうシリーズ企画です。

ゲスト：定保英弥さん（株式会社帝国ホテル 代表取締役社長）

聞き手：平野純一（NPO 法人日本香港協会広報委員）

伊東正裕（NPO 法人日本香港協会広報委員）

撮影協力：中国料理「北京」（帝国ホテル 東京）



定保英弥さん

——香港に住んでいたのは、いつごろでしょうか。

定保 1970年から3年間、小学校3年から5年までです。香港に行く前はドイツのハンブルクに1歳から7歳まで6年半住んでいました。小学1年で一度日本に帰り、2年後に再び香港での生活になりました。父が航空会社勤務でしたので、海外生活が続き、良い経験ができています。

——香港の第一印象はどのようなものでしたでしょうか。

定保 湿気の多いところだなと感じました。当時はイギリスの植民地でしたので、街はエネルギーな一方で、ヨーロッパ風の情緒あふれる景色も多く見られました。自宅は香港島の中腹のコンダット・ロード（干徳道）39号でした。広東語で言うと「ゴーンダッドウサムサップガウハウ」ですね。なぜかこの単語の発音だけでも覚えています（笑）。

家からの景色は最高でした。自分の部屋から、ビクトリアハーバーを挟んで九龍半島まですべて見えました。啓徳空港に着陸する飛行機も見ることができました。父が航空会社に勤めていたこともあって、特に飛行機が好きだったのです。当時は、何時にどこの航空会社の飛行機が到着するのかも覚えていたほどです。

◆ ペニンシュラとマンダリンの記憶

——香港日本人学校の思い出はいかがですか。

定保 通ったのはコーズウェイベイ（銅鑼湾）のタワーコート校舎です。ビルの中にある学校でした。校庭はな

く、休み時間の遊びといえば、ベランダでのドッジボールでした。体育の授業はハッピーバレー競馬場の馬が走るコースの内側にある芝生の広場でやっていました。

また小学生ですが家庭麻雀を覚えました。日本ではあまりないことかもしれませんが、香港らしいでしょうか。家族でやったり、うちに友達を呼んだりしてやりました。これは楽しかったですね。

遠足では船に乗ってランタオ島に行ったりしましたが、今や空港がランタオ島にありますから隔世の感です。私がいた時代は、はじめは香港島と九龍間の海底トンネルもありませんでした。車のときはフェリーで渡りました。——就職先に帝国ホテルを選んだことに、香港での生活は影響していますでしょうか。

定保 香港にはペニンシュラとマンダリンという、アジアを代表するホテルがあります。父の会社の支店はセントラルのマンダリンホテルの近くにありましたし、この2つのホテルは両親に連れられて行った記憶があります。子供ながらに高級感漂うホテルだなと感じていました。

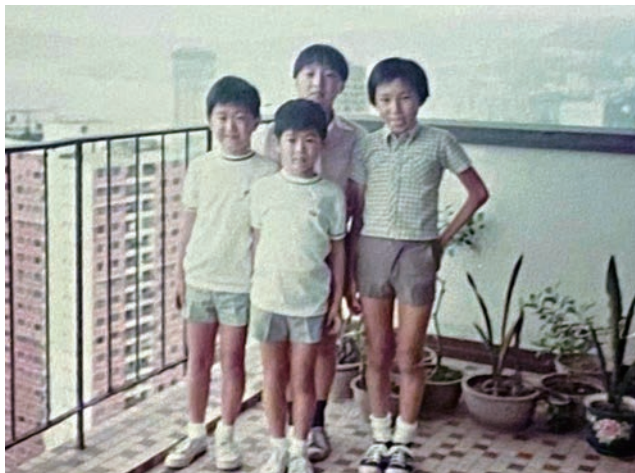
8歳年上の姉が大学受験で日本へ帰った際に、母親と私も付き添いで一時帰国しました。その時に泊まったのがたまたま帝国ホテルだったのです。帝国ホテルの重厚感のあるロビーが印象的でした。もしホテルに就職するなら帝国ホテルということが頭の片隅にあったかもしれません。

——そして、帝国ホテルに入社されました。

定保 入社後は主に営業畑を歩みました。仕事でも海外で働きたいという希望はずっとあり、91年の29歳の時に念願が叶い、ロサンゼルス営業所へ転勤となりました。

アメリカ西海岸全体が守備範囲でしたので、移動距離が長く大変でした。旅行代理店や米国企業を回り、日本を旅行したら、宿泊はぜひ帝国ホテルにと営業していました。当時、帝国ホテルに泊まる外国人の20~25%はアメリカ人が占めていました。

ロサンゼルスには4年間勤務しました。この経験は、



自宅のベランダにて（右から2人目が定保さん）



香港日本人学校（前列右端が定保さん）

ホテルでのキャリアをつくる礎になりました。海外で働きたいという気持ちのベースには、子供のころにハンブルクと香港、合計10年間の海外生活を経験したことがあったことは間違いありません。

——今は外資系ホテルとの競争も大変なのでしょうか。

定保 東京に進出する外資系ホテルは増えています。確かに競争は厳しいですね。ご存じの通り、ペニンシュラもマンダリンも東京に進出しています。

80年代までは、外資系ホテルはほとんどありませんでしたが、私がロサンゼルスに赴任していた90年代前半に、フォーシーズンズホテル椿山荘東京（現ホテル椿山荘東京）、恵比寿のウェスティンホテル東京、新宿のパークハイアット東京が相次いでオープンしました。このころから東京に外資系のホテルがどんどん進出するようになりました。

◆ 大変だったコロナ禍の経営

——そして、2013年に社長に就任されました。

定保 やはり大変だったのは、20年春に新型コロナウイルスの感染が広がった時です。これまでに経験したことのない厳しさでした。通常の客室稼働率は80~85%ですが、20年は10%台まで落ちました。

コロナ前に帝国ホテルの客室は931室ありましたが、タワー館の客室350室を徐々にサービスアパートメントとして新しい事業を始めました。これだけ大きなホテルで、客室、宴会、レストランのすべてが影響を受けたわけですから、それは大変です。この危機をどう乗り越えるか、そればかり考えていました。

コロナの発生から3年が経ち、ようやくにぎわいが戻ってきましたが、それでも売り上げはまだコロナ前の7割程度です。

——それでも雇用は守られたと聞きました。

定保 賞与などは減額せざるを得ませんでした。社員の雇用は守ることができました。20年4月に緊急事態宣言が出た時は、8割以上の社員が自宅待機になりました。

直接顔を合わせるができなくなりましたので、スマートフォンを使って全社員と連絡を取れる仕組みを利用し、全社員にメッセージを送りました。

そのメッセージは「雇用を守ります。とにかく感染に気を付けてください。いずれは元の営業体制に戻る日が必ずくるので、粘り強く頑張ってください」という内容でした。

そして、新しい施策や無駄を省くための新しいアイデアはないかと社員に募集を求めたところ、2,600人の半数以上の従業員から5,473件の提案がありました。正直、もっと少ないかなと思っていたので、心強い驚きでした。一緒に働いている仲間達の声は本当に大切だと改めて感じました。

——帝国ホテルは建て替えを計画していますね。

定保 現在の本館は1970年にできて50年以上経つので、いずれやらなければならないと考えていました。新型コロナで厳しい中ではありましたが、2021年に発表し、我々もいよいよ建て替えを行います。

東京の大きなホテルでは、パレスホテル、ホテル・オークラの建て替えが終わりました。帝国ホテルは2024年から順次行い、36年までかかる大工事です。これで次の世代にバトンを渡すことができます。社長としてこの計画を立てることができたのはよかったと思っています。

——帰国後に香港に行かれたことはありますか？

定保 プライベートで1回と、出張で2回程あります。行くたびに香港は高層ビルが増えてどんどん変わりますね。英国領時代の古き良き香港を知る人間としては、少し立ち止まって欲しいかなとも思っていました。

ただ、香港の方はとても日本が好きで、香港から来られるお客様で、特に富裕層の方は本当に日本の良いところをよくご存じです。「ぜひ帝国ホテルに」と常宿として宿泊して下さるお客様も多くいらっしゃいますので、ありがたいです。

——そうですね。コロナも収束に向かっていきますし、いずれ帝国ホテルで世代を超えた香港日本人学校の同窓会が開催できればと考えております。本日はありがとうございました。



左から伊東、定保さん、平野

香港映画界に訪れたのは“小陽春”か？ それとも春か？

NPO 法人日本香港協会 広報委員 汪 江美子

2023年3月13日～16日、香港コンベンション&エキシビジョン・センターにてアジア最大の映像コンテンツの国際見本市、香港フィルムアート2023が開催されました。今回の開催は2019年3月以来となるフィジカル開催。会場入口には趣向の凝らされた大手映画会社のブースが立ち並び、大画面には大音量のトレーラーが繰り返し投影され、会場はマスクを外した人々の商談で熱気に満ち溢れました。



30の国と地域から700を超える出展者が集まった香港フィルムアート2023

この数年、報道を通じて伝えられる香港の映画業界に関する話題は明るいものばかりではありませんでした。撮影機材の提供を事業の中核に据え、長年、香港映画界の一端を担ってきたSalon Films(H.K.)においても、デモやコロナを機に異業界へと去っていった同僚達の数は少なくありません。

しかし、2023年1月21日に香港で劇場公開された《毒舌大狀》は、僅か32日間で興行収入1億香港ドルを突破。現在も香港ローカル映画史上最高額（外国映画を含めたランキングでは歴代第8位）となる記録を更新中です。香港ローカル映画歴代興収ランキング第2位の《明日戦記》、第3位の《飯戲攻心》もこの1年の間に公開された新しい作品です。

毎年、約40～50本の香港映画、ないしは大陸との合作映画が公開されながら、それらは香港の興収全体の2割を占めるに過ぎず、かつての輝きを失った香港映画界に再び春がやって来たのか？本稿では香港映画を取り巻く最近の状況を当事者の立場から振り返ってみたいと思います。

◆ コロナ禍と映画館

2020年以降、香港では政府によるコロナ防疫措置の一環で、映画館は幾度も営業停止の憂き目に遭いました。昨年、映画館が閉鎖された期間は実に100日以上に及びます（1月7日～4月20日）。困難なスタートを切った2022年ですが、終わってみれば年間総興収US\$ 127,307,985（Box Office Mojo調べ）。最悪期（2020年）の興収の3倍、コロナ前（2019年）の7割方の回復をみせました。一時は有料動画配信サービスの視聴に流れた観客たちが映画館へ戻りつつある現状が窺えます。

◆ 国安法が落とした影

国家安全維持法の施行（2020年）を受け、2021年、映画検閲条例（Cap.392）の修正、及び映画検閲官が条例に基づく職務を遂行する上で遵守すべきガイドラインの改定が行われました。香港では、これまででも一般公開を目的とするすべての映画（予告編を含む）は事前に検閲官の承認を得る必要がありました。今回、暴力や恐怖、性的描写、差別など既存の観点に加え、国家の安全維持に害を及ぼすか否かという別の角度からの不確実性を抱えたことで、映画の製作や投資に関わる私達は新たなりスクと隣り合わせになったのです。

◆ 映画産業復興のための支援策

一方で、政府は、2005年以降、映画開発基金（FDF）に段階的に総額15億4,000万香港ドルとなる資金を投じ、地元映画産業の人材確保と産業再興を後押ししています。2020年7月、政府は短期的にローカル映画製作の数を増やし、コロナ禍における映画産業の苦境を緩和させるため、FDFの柱のひとつである「電影製作融資計劃」（中小予算の映画製作への政府融資）の上限を900万香港ドルに引き上げる措置を実施しました。これまで17の製作プロジェクトが緩和措置の下で承認され、《毒舌大狀》も総製作費の4割（約890万香港ドル）にこの支援スキームが利用されています。

香港映画界に訪れた“小陽春”（小春日和）。困難な状況ながら好調な数字が指し示す最近の様子は、業界の一員として勇気を与えられるものでした。過去を懐古するのではなく、新たな才能たちとあらゆる手段を講じて新たなジャンルやスタイルを切り拓く挑戦を続けていけば、2023年は“小陽春”ではなく本物の春の兆しだったのだと振り返れる日がやがて訪れるのかもしれない、私はそう考えています。



大ヒット記録中の法廷映画《毒舌大狀》
(©2023 Edko Films Ltd.)

〈プロフィール〉

汪江美子（わん・えみこ）／サロン・フィルムズ・ジャパン(株)営業マーケティング部長。香港を拠点に映画、ドラマ、CM等の撮影を行う総合映像プロダクション会社にて日本事業戦略を担当。慶應義塾大学大学院修了。15年半にわたる日本・東京商工会議所での勤務を経て、2019年来港。2020年より現職。

私と香港ビジネス

NPO 法人日本香港協会 事務局長 福井 一

1998年12月末、香港空港に着いた私は久しぶりの海外赴任に緊張と不安を感じながら、空港から一路アドミラルティにあるオフィスを目指した。当時の香港は90年代前半に「アジアの4匹の小さな龍」と称された香港から、アジア通貨危機を経験・変化しつつあり、前年の中国返還などもあって日本でも多くのメディアで「混沌とした香港」、「混迷する香港経済」と報道されていた。

当時の職業は商社の社員、数多くの取扱い品目の中でも鉄鋼製品の販売に従事しており、香港地場への販売、香港経由中国大陸への販売、そして中国製品を香港経由第三国に輸出することが仕事の柱であった。

今回はその中でも香港の鉄鋼問屋のオーナーさんたちとの行き来のエピソードを通じて「私と香港ビジネス」の一端をご紹介します。

◆ 明らかに大陸とは異なるビジネス風土

香港到着後、驚いたのは会食の豪華さと会食機会の多さであった。それまでの私は80年代に2回にわたり北京駐在（約9年間）をした経験から、ビジネスを語るのも宴会、契約を決めるのも宴会というのが「中国流」と思っていたが、香港に来て考えがおおいに変わった。「美味しいもの、珍しいものを公費で貪欲に食べる」、「白酒を強要する」と言った北京の中央官僚たちとは異なり、香港での宴会はあくまで仕事の話は最低限、まずは友人に対する自己紹介の場であり、そのために自分のお気に入りのレストランを紹介もするし、「自分の好きなものを薦めてみて新しい友人の好みを知り、今後の参考にする」という考え＝香港流「おもてなし」の一環であった。

当然、それまで経験した「今晚、白酒を50杯（無論白酒用の小さいグラスだが）飲まなかったら契約しない」とか「(当時の政治状況を反映して) 中国に対する日本の謝罪を込めて30杯飲め」と言った半ばきつい冗談、強要は一切なく（実際は飲まなくても契約はできるし、謝罪しなくても良いのだが）、自由な飲み食いを通じた取引関係構築の手段という極めて現実的なものであった。

また、営業時間中に顧客訪問をすると、日本では鉄鋼問屋さん訪問と言えば、皆さんお揃いの制服で、皆さん全員が席を立て「いらっしゃいませ！」と元気よく挨拶を交わされるのが常だが、香港の問屋は制服も挨拶もなし、しかも、この間の宴会できちんとネクタイ着用のうえ上等なスーツに身を包んでいたオーナーが汚れて、だら～んと伸びてしまったランニングに、短パン姿、でなぜか足元は安全靴、という出で立ち、かつ顔・顎からは香港の暑さと湿気で吹き出た大粒の汗、なんというギャップであろうか、でもその飾らない、エネルギーギッシュな「儲けるんや！」という前向き

な姿勢、上司と社員というより、親子・義兄弟に近い人間関係が、その企業を支えているという印象が強い会社が多く、私自身親近感の醸成にはあまり時間がかからなかったような記憶がある。

国際取引には貿易の慣例というものがあるのだが、大陸ではその慣例とはかけ離れた「中国ルール」が存在し、トラブルが起きることも多かった。特に多かったのは支払いに関する事であったが、香港では銀行も十分に機能しており、心配がなかったことが一つの発見、安心であった。やはり古くから国際ビジネスに鍛えられている金融機関が存在している香港には大きな安心感があった。また、顧客そのものも店構えは金物置き場のな店であっても、一旦契約となれば100米ドルから500万米ドル程度の支払いならば即用意できる企業が多く、見た目で判断することの危うさ、相手企業の内容の把握が最重要ということが身にしみて理解できたというのが思い出である。

◆ 中国に対する思いはそれぞれ

色々な人との出会いがあったが、中国に対する思いは当然のことながら人それぞれ。あるオーナーは酔うたびに文化大革命の折、故郷である広東省新会から香港に逃げる際解放軍に撃ち抜かれた二の腕の傷を見せては泣く。その人は決して中国に工場を建設することなく、ベトナムに進出しその後2代目が大成を取めたのだが、彼とは対照的に中国仏山に工場を建設、地場政府とも積極的に協調しながら大成を取めている企業もある。

まさしく「ビジネスは関係（グアンシー）、ご縁」と思えるのだが、最近では香港から進出した企業でも自動車関連以外の金属加工などは一部淘汰され始めている模様で、私の「好朋友」の2代目、3代目の活躍、健闘を期待してやまない。



香港の下町に見られた金属問屋（写真：広報委員 小柳淳）

Hong Kong is back! 香港ジュエリーショーが大盛況

香港貿易発展局 マーケティング・マネージャー 引地 洋介

3月1日～5日、香港貿易発展局主催の香港ジュエリーショーが開催されました。昨年末から香港のコロナ関連の検疫措置が急速に緩和され、とりわけ年明け後に中国本土からの渡航が解禁されたこともあり、世界中から約2,500社が出展。130か国・地域から6万人を越える来場があり、会場は連日大勢のバイヤーが押し寄せ、大賑わいとなりました。

この度のジュエリーショーは、海外から現地へ参加できる形としては2019年以来4年ぶりの開催だったこともあり、人出について懸念する声もありました。ただ蓋を開けてみると、コロナ禍を挟んで久しぶりの本格的なジュエリーショーとあって、予想以上の盛況ぶりとなり、「Strong Comeback」の標語どおり、香港がついに国際舞台に戻ってきたことを強く印象づけました。折しもショーの初日である3月1日には、香港政府が2年半以上にわたって実施してきたマスク着用の義務が終了となり、香港がパンデミックから脱却したことを示す重要なメッセージともなりました。実際、開幕式では登壇者全員がノーマスクで登場し乾杯、参加した政府高官は「この展示会は香港が国際市場に戻ってきた象徴となる」と述べ、香港の完全正常化をアピールしました。

初日は開場前から長蛇の列ができ、入場するまでに2～3時間待ったというほどの混雑ぶり、バイヤーの期待値の高さを物語っていました。ショーは香港コンベンション&エキシビションセンターのほぼ全館を使用して開催されましたが、とりわけ混雑していたのが日本の出展者がまとまって出展するジャパンパビリオンです。ジャパンパビリオンは、日本真珠輸出組合によるパールパビリオン（69社）と日本ジュエリー協会による製品のパビリオン（86社）が出展、特にパールパビリオンは歩く隙間もないほど大混雑し、各ブースはまさに黒山の人だかり状態。人気の商品などは初日や2日目に大方の在庫が売れてしまうほどで、想定外の来場数とバイ



大混雑のジャパンパールパビリオン

ヤーの購買意欲に多くの出展者は昼食をとる時間や休憩時間もとれないほど対応に追われ、嬉しい悲鳴を上げていました。

香港は言わずと知れた宝飾品の世界最大の取引拠点であり、消費市場でもあります。街を歩けばこれでもかと言わんばかりに宝飾店がひしめき合っています。日本の宝飾品にとっても世界最大の輸出先で、とりわけ真珠は日本からの輸出の7割以上が香港向けとなっています。香港のジュエリーショーは主だったもので3月、6月、9月、11月と年4回開催されており、取引の最重要舞台となっています。卸業者の中には香港のジュエリーショーでの売上だけで年間売上の半分以上を占めるところもあります。実際、新型コロナウイルスの流行でジュエリーショーが開催されなかった2020年には、日本の真珠の海外輸出は前年比約77%マイナスと激減したほどでした。

香港貿易発展局では現在、「Exhibition+」という新しい展示会モデルを推進しています。リアル展示会を核に、オンラインツールを駆使することにより、展示会の前後2か月間に渡って露出を高めバイヤーにアピールし、また展示会後もしっかりとバイヤーをフォローすることができるように、展示会参加の効果を最大限引き上げ

るものです。ただ、ジュエリーは実際に手に取って見てみないと分からないことが多く、取引のベースには信用があることが大前提となることから、対面式でないとならぬと商売が難しい業界です。こうしたことも今回の盛況ぶりの背景にあったことは間違いありません。旧知の取引相手と数年ぶりに対面で話をするのができ再会を喜ぶ光景が至る所で見られたこと、またそれが香港貿易発展局主催の展示会の場であったことを、大変嬉しく思います。



全員がノーマスクで行われた開会式

香港経済貿易代表部が 春節レセプション2023を東京で開催

2月8日、香港特別行政区駐東京経済貿易代表部主催により、卯年の旧暦正月をお祝いする春節レセプションがホテルオークラ東京で開催されました。日本の政官財界、学界、メディアやコミュニティ団体など各方面から約400名のVIPが招かれましたが、長く続いた新型コロナウイルスの影響で、大規模な宴がリアルで催されるのは3年ぶりのこととなります。

主催者である香港特別行政区政府駐東京経済貿易代表部のウィンサム・アウ（歐慧心）首席代表代行は、冒頭の挨拶の中で、昨年7月に就任したジョン・リー（李家超）行政長官が施政方針演説で発表したさまざまな政策イニシアチブに言及、最新の香港情報について説明しました。また、香港と日本間のビジネス関係について、2022年度の統計値によれば、香港における最大の海外ビジネスコミュニティが依然として日本であることが紹介されました。そういう意味において、日本と香港は強い友好関係で結ばれているわけですが、アウ首席代表代行は、今後も両地のビジネス・経済の絆がますます発展し、あらゆる面で双方の関係が一層深まることを大いに期待していると述べました。

さらに、アウ首席代表代行は、香港が海外から重点企業の誘致やグローバルな才能を誘致するために新たな取り組みを実施していると紹介、2022年12月から、香港特別行政区政府駐東京経済貿易代表部の東京オフィス内に「企業・人材誘致専門室」が設置され、香港の経済発展に弾みをつけるべく、日本と韓国のターゲット企業や人材に積極的に働きかけ、香港に進出して成長を追求することを促しているとのことでした。

アウ首席代表代行はまた、本年2月2日にリー行政長官の指示のもと、香港政府観光局が新たにスタートした「ハロー香港（Hello Hong Kong）」キャンペーンについても触れました。本キャンペーンは、香港を訪れる世界各地の観光客、ビジネス訪問客、投資家を、香港へ歓迎



「香港天籟敦煌樂團」による演奏

する一連のプロモーション活動を含む世界規模のキャンペーンで、その一環として、香港を拠点とする航空会社（キャセイパシフィック航空、香港エクスプレス、香港航空、大湾区航空）の4社を通じて、3月から段階的に50万枚の無料航空券が世界中の人々を対象に配布されることが紹介されました。

続いて、日本の政界を代表して、日本香港友好議員連盟メンバーである山口那津男公明党代表による来賓挨拶、中国大使館の孔鉉佑大使の代理を務めた施泳公使による乾杯挨拶、主催者と来賓の方々による壇上の記念撮影がありました。その後、食事・歓談の時間となり、長く日本・香港の交流に関わってこられた方々が、何年かぶりに旧交を温める姿や、参加者間の名刺交換などネットワークワーキングする様子が見られました。建て替えが完了し2019年に営業再開したホテルオークラ東京のビュッフェは、点心類など香港的なメニューも充実、参加者を唸らせる豪華で美味な料理のオンパレードで、好評を博しました。

アトラクションとしては、香港の演奏グループ「香港天籟敦煌樂團」によるパフォーマンスや、恒例の横浜中華街から駆け付けたライオンダンスが披露されました。二頭のライオンは、全ての参加者に福を届けるべく、会場内を練り歩き、喝采を浴びました。日本香港協会からは、全国連合会の佐藤会長とヤウ事務局長（香港貿易發展局日本首席代表）、東京の野島副会長、小柳理事、大庭理事、松田理事、貴島理事、内山理事、伊東理事（香港貿易發展局東京事務所長）、福井事務局長、関西の戒田会長、中京の大竹顧問と加藤顧問、高知の森本会長が列席、互いに今年12月の「香港フォーラム」での再会を約束しました。

協会メンバーを含め、参加者された方々は、徐々に再開される香港の多彩な活動のニュースに希望と期待を抱きつつ、約2時間の祝典を存分に楽しみました。ポストコロナの時代を迎え、今後は、リアルのイベントの復活、ひいては日本香港間の双方向の渡航の再活性化が待たれます。



主催者と来賓の集合写真



第22回NPO法人日本香港協会総会

3月10日、東京都千代田区一ツ橋の如水会館にて、第22回通常総会が開催されました。コロナ禍の状況も大きく改善されつつあるとはいえ、今年もオンライン主体の「ハイブリッド方式」での総会となりましたが、多くの正会員の皆様から事前に委任状を頂戴でき、無事に総会開催・成立に至りました。この場をお借りして正会員の皆様には厚く御礼申し上げます。

総会は、定款に則り事務局長から定足数の確認、総会成立を確認後、佐藤会長に議長を委嘱、定刻通り開始(18時)され、野島副会長より第1号議案「令和4年度事業報告書」の説明、事務局長から第2号議案「令和4年度活動計算書」及び付随会計書類(貸借対照表、財務諸表の注記、及び財産目録など)の説明を実施、杉野監事から監査報告を受けた後、第1号議案、第2号議案の採決を実施。満場一致にて承認を得ました。

その後、令和5年度の事業計画「第3号議案」について、



総会参加者の皆さん

大島理事が発表、内容として、①コロナ禍が収束に向かっているとはいえ、ドラゴンボートレース等の行事では感染予防に留意を怠らないこと②広東語教室運営方針や「華人経営研究」講座に関して現在次期講座開設のため鋭意準備中であることなどが報告され、承認を得ました。小柳理事から令和5年度活動予算「第4号議案」に関して説明を実施、承認を得ました(総会終了18時30分)。

なお、オンラインご参加の理事・会員に加え、当日会場には「香港麵陸記」を経営しておられる陸民傑氏、先日パンダのシャンシャンの中国向け輸送を受け持ったケリーロジスティクスジャパン株式会社の林宏才氏などの会員も直接参加いただき、リアル参加者は20名を超える形となり、総会終了後も色々な意見・情報交換もできました。

来年の総会こそ、コロナ前の通常の状態で開催できることを期待しつつ、第22回総会を上記のとおりご報告します。



佐藤会長あいさつ

NPO法人日本香港協会 理事 桜井 知治

第17期CMMS「華人経営研究」講座修了報告

今期で17回を数えるCMMS「華人経営研究」講座は、昨年10月6日に開講、本年3月16日を以て全21講座が無事に修了致しました。今期も、前期に引き続き全講座をオンラインにて配信、お陰さまで分割受講含め74名の方々にご視聴いただきました。また、九州・関西・新潟・宮城の各地日本香港協会、並びに法人会員企業から多数の受講生にご参加いただきました。この場をお借りして皆様からのご支援に厚く御礼申し上げます。

当該講座は、理論編では、当代一流教授陣を招いて中国の歴史、思想、戦術等を学び、実践編では、香港含む中国市場や華人経営に精通したアナリストや経営者を講師陣に揃えて、中国、華人圏ビジネスをどう展開、運営していけば良いのか分かり易く分析、解説していく内容

となっています。昨今、中国を取り巻くビジネス環境が激変している中、受講生皆様には、気付き、学びの機会をご提供できるものと確信しております。第18期の講座は、2024年4月の開講を計画しております。開催要領が決定次第、「飛龍」にて追ってご案内致しますので、是非ご期待ください。



CMMSパンフレット

女性が活躍する香港、活躍する協会女性会員

3月3日に神戸メリケンパークオリエンタルホテルで開催された「国際女性デー」に協賛企業の代表として参加しました。このご縁は、当協会の副会長、伊藤紀美子さん（田嶋(株)社長/神戸商工会議所副会頭）が主催者 Kansai Global Society のアドバイザーをされたことにあり、192名の参加者で盛会でした。1975年に、国連が3月8日を「国際女性デー」と定め、世界の多くの国々で男女平等を追求し、ワークライフとファミリーライフのバランスを取りながら共により幸せな人生を生きることを目標にしています。在大阪イタリアと英国の総領事の基調講演の後ディナー・テーブルディスカッションで意見交換し、ウクライナのクラシックバレエ3名のダンサーの素敵なダンスが披露され、参加費の一部が兵庫県に避難しているウクライナ人家族に寄付されました。

日本では、政府が「女性活躍社会の実現」を度々大きな目標に掲げてきましたが、国際比較において中々実現しない状況が続いています。女性の潜在的な高い能力が十分に発揮できるようになれば、少子高齢化で衰える国力がかなりカバーされるのではないかと思います。夫婦が仲良くして良い子を育て、意欲的に存在感のある働きをして欲しいと思いました。

香港は英語が公用語であるために、多くの方が完璧な英語をしゃべり、インターナショナル・スタンダードの仕事をしています。香港フォーラムに参加して何時も感心するのは、フォーラムの大きなイベントが香港貿易発展局の総裁マーガレット・フォンさんを筆頭に全員女性スタッフにより企画・運営されていることです。前の行政長官は女性のキャリー・ラムさんでした。香港政府の駐東京経済貿易代表部の首席代表も歴代女性です。又、私が役員をしている香港のヘッジファンドの営業トップの専務取締役、総務部長が女性で、日頃仕事の連絡メール相手はほとんどが女性です。男性の存在感が薄いですね。私が知っているお金持ちの奥さんは、ほとんどが自分の会社を持ってビジネスをしたり、文化的な財団の役員をしたりして活動的です。香港は、男女平等社会、又は女性上位の社会になっているような印象です。

関西日本香港協会では、活躍する女性会員が増えていきます。ジャズ歌手の女性会員は香港進出をきっかけにして翌年から台湾、シンガポールにも進出、イタリアでの国際音楽祭で歌い、「香港からアジアへ、そして世界へ」を実現しました。2017年のアジア美人コンテストで準優勝した女性は昨年12月に東京の帝国ホテルで美人コンテストを主催し入賞者をアジア大会へ派遣します。米国での国際美人コンテストで2年連続優勝した女性は、今年の大会の西日本代表を決める選考会を準備中です。日本文化総合研究所の代表は京都の優れた日本文化遺産

を世界のセレブ達に紹介する事業に意欲的に取り組んでいます。他にも、OEM化粧品や健康食品を香港や中国に輸出する計画に取り組んでいる女性会員がおられます。女性会員の活躍で協会も活性化するでしょう。

チャイニーズ・ニュー・イヤー・パーティー開催

コロナ禍で2年連続開催出来なかった春節パーティを2月27日に中華料理錦城閣で開催し、52名が参加しました。久しぶりの懇親会で大いに盛り上がり、楽しいパーティになりました。協会会員のレストランオーナーのご好意で、ふかひれの姿煮、北京ダック、アワビ料理などの豪華な食事に大満足、ラッキードローではキャセイ航空から香港往復ペアチケットの特別賞が提供されて喜ばれました。



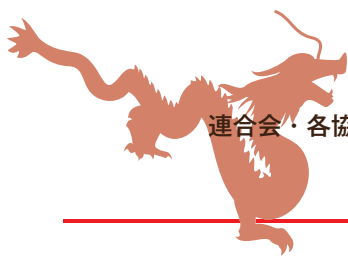
チャイニーズ・ニュー・イヤー・パーティー

令和5年度総会開催

去る3月10日に大阪国際ビルの16階セミナー室において令和5年度総会を開催し、21名が参加しました。総会の前に30分間コーヒーを飲みながら会員と役員との交流会が和やかな雰囲気で開催され、総会では役員人事で山内崇生氏（元オムロン香港総経理）の理事就任、2022年度決算報告、2023年度予算案、2022年度事業報告、2023年度事業計画が承認されて、今年の協会運営を17名の役員で実施する事が決められました。



令和5年度総会



香港街市(3)雑記帳

“Are you Ms Koyama? Now speaking OK?” HKTDC からの国際電話である。平日デザイン専門学校の授業の講師の休憩時間での事だ。自営で販促企画&デザイン事務所も営む主婦兼子育て中の身です。2004年11月16~21日 HONG KONG Business of Design Week 2004 LIFE STYLE ASIAに出展準備中の事。LUNA CREATORS GROUP/月設計師群の名称申込(グループ出展)のため1小間のブース出展料を2週間前にX銀行からHKTDC事務局への振込んだはずが、未達との連絡に驚いた。銀行ミスでニューヨークに入金確認出来、至急香港に転送依頼。DM制作・飛行機・宿泊手配・香港関連の知人に通知・出発まで超多忙。

今回も香港へはキャセイパシフィック航空で開催前日出発。名古屋から朝一番直行便。当時の堀支店長には大変お世話になった。香港到着は午後1時半。香港會議展覽中心(HKCEC)会場近くのワーニーガンドンホテル(4星)を予約。徒歩10分圏内の至便。展示会期中は宿泊費上昇。チェックイン後、メンバーの写真家・彫刻家・書アーティストと企画販促デザインの私は(1名は作品出展・イラストレーター)会場入りし、ブース小間の展示設営に着手。棚と卓に各自設置し約3時間で取付完了。当然の事乍ら金槌等七つ道具一式持参で短時間設営。この日は夕飯をロックハートロード沿いにある雲呑麵で有名な永華雲呑粥麵家へ案内した。大根ピクルスが卓上にありこれも美味しい。が、女史1人が、店が狭く人が一杯で嫌と宣うので、近い別の綺麗な店構えの店で夕食。

翌日の朝HKCECでオープニングセレモニーに参加。展示会場はとても広く世界各国から集客、東京大阪の比ではない。この時期の香港の現地駐在の方は中国本土出張で多忙と聞いた。が平日の展示会場には香港人、特に若い人が多く来場。今回の展示会に関しては物販が少ないので、集客は少し心配(食品関連の展示会は1日中人が多数来場)。全員で中1日香港観光へ繰り出した。中環セントラル〜トラムでヴィクトリアピークへ。香港を一望して“来来你好!”夜は広東料理飯店で満腹に。しめはマンゴープリン。メンバーの石彫刻家は作品を何方かに寄贈を希望し、中京日本香港協会法人会員、名港海運香港現地法人に贈呈が叶った(重量10kg以上で要台車)。会場内では毎日HKTDC発行のデイリー紙が各ブースに配布される。このサービスは嬉しい。今回幸運な事案は日本企業からの取材オファーが入ったこと。業界(ディスプレイ・内装・インテリア)最大手の株式会社丹青社様からである。積み上げの仕事の評価を戴いた事は大変嬉しい。以後数年にわたり同社のウェブサイトに掲載された。光栄です。

話題転換します。名古屋のガーデン提携会社社長に以

前から“独り歩き香港”指南を請われていた。私の香港行がすこぶる琴線に触れたのか、5月HKTDC建築関連展示会にご案内した。今回は尖沙咀のキンバリーホテル香港(4星バスタブ有り)。同行の社長はデジタル人でスキルレベルが凄いい羨ましい程順応性が高く、すぐに香港に同化。相当なグルメ家で食への造詣も深い。来港前、料理リクエストを作成し持参。甘党で若干好みは偏りがちである。街歩きでは、銀行・トラム・コンビニ・City Super・裕貨・女人街・男人街・ランガムプレイス・尖沙咀碼頭フェリー乗船・オクトパス購入・脚マッサージ(香港は地面が岩成で足が疲れると聞いた)体験で香港を堪能。

4日目を降は別行動に。私は空路でタイ北部のチェンマイへ(香港から2時間)。事前手配済み。ホテルはナイトマーケットに近いインペリアルメイピン(5星)。かの人気歌姫テレサテンの常宿で有名。館内各所にテレサの写真装飾。旧市街・新市街徒歩圏内で軽快な街歩きサイズ。事前に買い付け依頼された商材であるドレス用絹生地を世界的ブランドのタイシルク店ジムトンプソン(タクシン一族経営)へ調達に。リクエスト分を購入しEMSで日本へ郵送手配。トゥクトゥク(三輪車)でホテルへ戻り夕方ナイトマーケットへ。シルバー製品・玉石・上質な綿製品も豊富。衣服サイズがとにかく細い。New Half Show公演も鑑賞。前回は日本の岐阜のホテルへ遠征でClose。今回は韓国人ダンサーも出演、オーナーマダムが横でいろいろ説明してくれる。最前列に欧米のプロモーターと思しき男性2人がスカウトの為チェック中。チェンマイはスペイン語も多く聞かれる。革製品も良質でコスメ植物オーガニック製品も多彩。中京日本香港協会の私はステーキのあさくまの近藤会長に生け花展(ご自身主宰流派・家元)に度々ご招待戴いた。世界の山ちゃんの山本会長は漁火会(ビジネス交流会)で知己を得、香港話で賑やいだ。両会長とも香港に憧憬をお持ちであった。多謝。



HONG KONG Business of Design Week 2004 LIFE STYLE ASIA

ウィズコロナの香港 ～アウトバウンドの復活と香港域内の変化～

1. 防疫措置の緩和

2021年12月末から始まった香港の新型コロナウイルス感染症の第5波。それまで厳しい水際対策や域内の感染防止対策によりコロナ感染症を抑え込んで来た香港だが、オミクロン株による突然の感染拡大は、医療のひっ迫やロックダウンの噂による食品の買い占めなど、社会に大きな混乱を引き起こした。その感染拡大もピークを過ぎた昨年春以降、水際・防疫規制が徐々に緩和され、今年1月30日には陽性者の隔離義務が廃止されるとともに、政府による陽性者の全数把握も停止した。

中国本土との間では1月8日に隔離なし往来が再開されていたが、2月6日からは出入国人数制限が撤廃され、PCR陰性証明も不要となり、本土との往来が完全に正常化された。

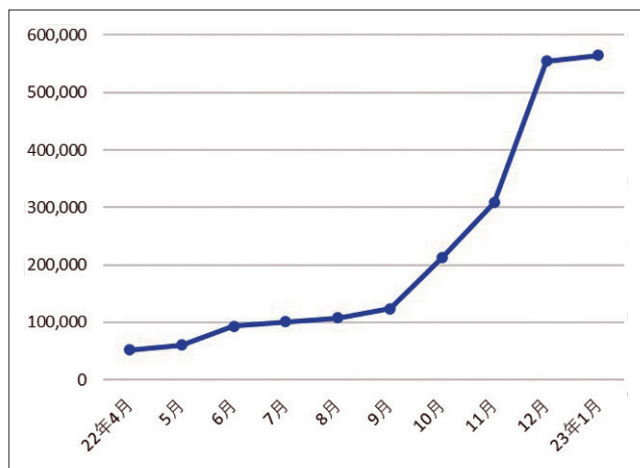
本稿では、特に昨年12月以降、急速にウィズコロナへと舵を切った香港の現在についてレポートしたい。

2. アウトバウンド旅行の復活

海外から香港に入国した際の政府指定検疫ホテルでの隔離措置が9月26日に撤廃されてから、香港人の海外旅行が増加した（下図）。

12月14日にはさらに入境後の行動制限が撤廃されたことから、出国者数が急増した。特に旧正月（1月22日～25日）の連休前には1日当たり人口の約0.4%にあたる3万人を超える人が香港空港から出境している。

従来から香港人に人気のあった旅行先は、日本、台湾、タイ、韓国等であるが、2022年冬の大手旅行予約サイトの検索ランキングではトップ10に日本の都市が4つ（東京、大阪、京都、札幌）入るなど、旅行先としての日本の人気うかがえる。それゆえ、昨年12月末に突



香港空港からの出境者数（香港居民のみ）
※香港特別行政区政府入境事務処発

然発表された日本政府による水際対策の見直しは、フライトのキャンセルも相次ぎ、香港人の訪日旅行熱に冷や水を浴びせる形となった。



香港島を一望できる海沿いの遊歩道。コロナ下ではランニングや釣りをする香港市民以外、ほとんど人を見かけなかったが、現在は多くの観光客で賑わっている

3. 香港域内の変化と今後の展望

香港人の海外旅行が増える一方、香港域内での消費行動にも変化がみられる。一例を挙げると、過去3年間、海外旅行に代わる消費として高級店（高価格帯のレストラン）ほど予約が取りづらい状況が続き、また、寿司をはじめ多くの日本食レストランがオープンするとともに、香港人の間で「おまかせ」ブームが生まれた。Facebookには登録者8万1,000人を誇る「香港 Omakase おまかせ關注組」というグループがあり、ここで実際に食べたおまかせメニューが投稿され、情報交換が行われている。

しかしながら飲食店関係者によると、昨年秋以降、高級店の予約が埋まるスピードが明らかに落ちたという。また、コロナ下の飲食店の営業時間制限は人々の生活習慣にも影響を与え、コロナ以前のように夜遅くまで出歩かなくなったという声や、従業員も夜遅い時間まで働きたがらなくなったという声も聞く。

もっとも、高級飲食店の予約についてはバレンタイン以降、堅調であり、これは、中国本土からの観光客によるものと考えられるという。また、先述のおまかせブームについては、その範囲を日本国内の飲食店に広げつつ継続している。

コロナ以前の2018年には年間5,100万人もの中国人観光客が香港を訪れていたことを考えると、今後は彼らの存在を念頭に置く必要があること、また、香港人のアウトバウンド旅行とおまかせブーム等、域内での流行を相互に関連させることが、県内の企業にとって、あるいは福岡への誘客にとって一つの可能性になると思われる。



スモッチ 香港への輸出に向けたチャレンジ!

輸出が難しいと言われた商品（賞味期限が3週間・冷蔵）でも、中小企業が頑張って輸出を実現させた事例についてご紹介します。香港に輸出を考えている皆様のご参考になれば幸いです。2021年3月から輸出をスタートし、香港に「スモッチ（半熟の燻製卵）」を月間で約3,000個輸出しています。

◆ 会社の紹介

株式会社半澤鶏卵は、山形県で生卵の生産・加工・販売を行っている会社です。県内で約4万5千羽を飼育し、生卵を自社の直売所「いではCOCCO」などで販売しています。また、スモッチやプリンやシュークリームなど卵を使った加工品を製造しています。スモッチは、平成18年の発売以来1,500万個以上を売り上げる半澤鶏卵の一番人気商品です。とろける半熟の黄身と、絶妙な塩加減がクセになります。

◆ 輸出へのチャレンジ

2013年に、韓国の業者から、塩味ゆで卵を作りたいという依頼があり、そのときは、取引につながりませんでした。海外の需要を意識するきっかけとなりました。



スモッチ（黄身がトロトロのもの）

2019年1月に、山形県・山形銀行・山形県国際経済振興機構による香港での商談会に参加しました。商談会で、多くのバイヤーから「スモッチは美味しい。ぜひ取り扱いたい」という話をいただきました。しかし、スモッチの賞味期限が3週間と短いことから取引にはつながりませんでした。その後香港の小売店を視察する機会があり、日本の生卵がたくさん販売されており、日本の生卵の人気を知ることができました。

翌2月には、山形県・ジェトロ山形による香港での販売会に参加しました。スモッチの試食を出したところ、お客様から好評を得ました。販売価格については輸出することを想定して、国内価格の2倍近い価格設定としました。非常に好評で数時間で200個が完売となりました。「スモッチは、香港のお客様にとって美味しい商品として評価して頂ける土壤がある」と確信しました。

2019年から約30社と商談して、バイヤーから味は「美味しい」という意見を多くいただきましたが、賞味期限が3週間と短いこと（空輸が必要）であること、動物検疫の手続きが必要であること等のコストがかかることから、取引には至りませんでした。

◆ 輸出へのチャレンジ2

輸出に向けて様々な支援機関のサービスを活用しました。

- ジェトロ新輸出大国コンソーシアムのハンズオン支援による専門家からのアドバイスと支援の活用
- 山形大学の学生と共に輸出戦略を練るワークショップを開催、SNSの活用や香港での商品のネーミング等のアイデアを採用
- 山形県国際経済振興機構の翻訳サービスの活用
- 日本政策金融公庫のトライアル輸出支援の活用
- 中小企業基盤整備機構EC活用支援の活用 など

2021年3月に山形県とジェトロ山形が主催したオンライン商談会に参加し、そこで香港の商社サンリーラン（新利欄）と商談が成立。商談が成功した要因としては、サンリーランが既に日本から生卵を空輸していた経験と実績があったことが挙げられます。輸送や動物検疫も一括依頼してコストを削減することができました。現在、香港のそごう、飲食店、通信販売サイトなどで販売しています。

スモッチの認知度を上げるために香港のフードエキスポに参加したことに加え、英語版ホームページの作成にも取り組みました。また、スモッチのラッピングカーを走らせるなどスモッチを香港のお客様に知って頂く取り組みを広げています。さらに県内外の新聞やテレビに取り上げていただき会社の認知度も向上し、それを契機に社員は自分たちの商品が海外でも通用すると自信が持てるようになりました。スモッチの輸出は会社の成長につながるきっかけにもなったのです。

◆ これから

半澤鶏卵は今後、もっと多くの香港のお客様にスモッチを知ってもらうために、香港でのスモッチの催事に積極的に取り組みます。また、2023年2月からは生卵の輸出も開始しました。「半澤鶏卵の商品は、全部美味しい」と言って頂けるよう、ブランドの確立に取り組んでいきたいと思っています。

◆ まとめ

輸出が難しいと言われた商品が、なぜ輸出ができたかについて改めて考えてみます。

1番のポイントは、トップがあきらめずに挑戦する意思を示し続けたことだと思います。あきらめずに挑戦することで、様々なチャンスをつかむことができるように思います。また、サポートしてくれる産学官チームとの連携が重要です。輸出という新たな販路を開拓するためには、専門家のアドバイスを聞き、リスクをコントロールしながら現地のニーズをつかむことが重要です。専門家の持っているネットワークや商談会も活用することで、新たなバイヤーとの出会いの機会がもたらされます。弊社だけの取り組みだけでは輸出は難しかったと思っています。

この記事を読んで頂くことで中小企業の皆様が輸出事業に取り組める一助になれば幸いです。

HOKKAIDO

北海道日本香港協会

北海道日本香港協会 事務局 矢萩 利浩

アフターコロナへの期待

最近、札幌の街を歩いておられますと、インバウンドの皆様が多くみられるようになりました。アフターコロナを見据えた活動が活発化しており、いよいよ加速するものと期待しております。

振り返りますと、北海道は新型コロナによる渡航制限期間中、観光客の来訪が他の地域と同様に途絶えておりましたが、昨年末から北海道を訪れる観光客も回復傾向にあります。年初こそ中国の新型コロナウイルスの感染急拡大を受け、日本政府が中国本土と香港、マカオからの航空便の到着を成田、羽田、関西、中部の4空港に制限すると発表した影響で混乱も生じたものの、その後香港との直行便も再開したこともあり、ニセコやトマムなどでスキーやスノーボードなどのウィンタースポーツを楽しむ香港人の姿も多くみられるようになりました。その他、北海道の美しい自然や、四季折々の景色、そして独自の文化などが、多くの香港人カップルに魅力的に映っているようで、北海道で結婚式を挙げる香港人カップルも増加しています。北海道ならではの雄大な自然をバックに、屋外でのウェディングも人気があり、中でも、旭岳や富良野の丘などの景勝地でのウェディングは、多くの香港人カップルに人気があります。



『First Love 初恋』ロケマップ
(©札幌フィルムコミッション)

また、昨年冬に公開されたNetflixオリジナルシリーズ『First Love 初恋』は札幌を中心に北海道を舞台としたラブストーリーで、香港でもランキング上位入りするなど多くの視聴者を魅了しました。『First Love 初恋』は札幌フィルムコミッションの全面的な協力のもとで制作・撮影されていたこともあり、同コミッションでは英語版や中国語版のロケ地マップも作成されています。北海道には、美しい自然や食べ物など、魅力的な観光スポットがたくさんあるため、香港をはじめ海外からの観光客も『First Love 初恋』の舞台となった



映画撮影の様子 (©札幌フィルムコミッション)

北海道のロケ地を訪れることで、映画の世界に浸りながら、北海道の魅力を堪能することができます。3月に香港で開催された映画や動画コンテンツの見本市「Filmart」には、札幌フィルムコミッションも出展し、更なるロケ誘致の活動をされています。

香港系資本による対道投資も引き続きブームとなっており、香港の不動産大手、新世界発展（ニュー・ワールド・デベロップメント）系のホテルが運営する高級リゾート「ニューワールド・ラ・ブルーム・ニセコ・リゾート」が24年夏に開業予定で、今月から香港の投資家向けに所有権の分譲が開始されています。他にも、香港系の複合施設やホテル、コンドミニウムが複数開業を控えています。

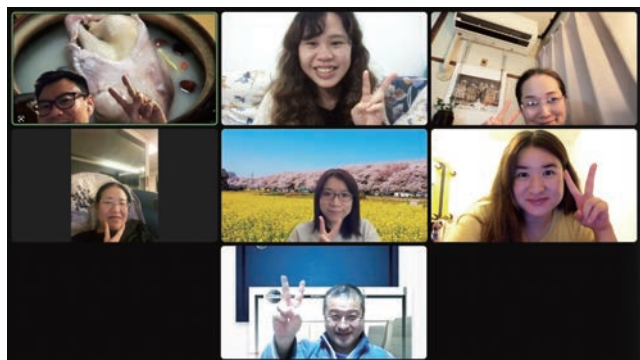
また、渡航制限の廃止に伴い、大学間の交流も動き始めています。北海道大学の発表によりますと、北海道大学・チュラロンコン大学・香港大学の3つの大学の主催で学生向け合同サマースクールを開催し、世界各地から集まる参加者と一緒に、7月から8月にかけて3つの地域を回り、それぞれの大学でSDGsをテーマに1週間毎の学修を行うユニークな取り組みを行うとのことです。

合同サマースクール (©北海道大学)



学生部による「香港宮城交流会」を開催 (11月～3月)

昨年3月、本協会にて新たに誕生した「学生部」は、香港からの留学生を含む県内の香港好きが集まって、新型コロナウイルス感染拡大下の現在はオンライン開催を中心に、月一の日曜日の夜に交流活動を行っています。



ZOOM会議

◆ 11月開催

11月は、「香港の冬料理とクリスマス」をテーマに7名の参加者が集まりました。香港の日本語学生からは、「香港の冬料理は体を芯から暖めたり疲れを癒したりする目的で、食材や薬膳を長く煮るスープが多いです。鶏一羽を使う場合も多いので、日本より鶏を丸一個を買う頻度が多いです」などと説明があり、日本人の参加者は、鶏の種類によって違う効果を学びました。

◆ 1月開催

1月は、「旧正月」を題材に、6名が香港旧正月の文化を語りました。旧正月は香港における最も重要な年中行事なので、ナイトパレードや花火など様々な大きいイベントが行われます。香港人学生からは、家族や親戚・恋人で「拜年」を行う時の注意点が紹介されました。香港では親戚や恋人の自宅を訪問する際は、挨拶の初めに必ず「恭喜發財!」という新年の言葉を言い、更に縁起を担いで四字熟語のお祝いの言葉をその場にいる人で順番に言っていく風習があります。旧正月から7日間、お菓子やお土産など全ての値段は普段より高くなりますので、



1月の香港宮城交流会の宣伝ポスター

旧正月の前後一週間で買うのが一番という具体的なライフハックも香港人の参加者たちから熱心に語られました。

◆ 2月開催

2月には、「ハイキング、香港の移民状況、コロナ後の旅行」をテーマに7名の参加者を得ました。香港はハイキングが好きの方が多く、日本で人気のハイキングに関する話題や、日本のハイキングスポットを紹介し、お互い交流を深めました。香港の学生からは、香港に関する移民状況について、今人気の移住場所はイギリスとカナダとなっているが、コロナ後の旅行先は日本全国を訪ねることを楽しみにしていると話がありました。



2月の香港宮城交流会の宣伝ポスター

◆ 3月開催

3月には、「引っ越し事情比較と福岡旅行スポット」を題材に2本立ての企画交流会に4名が参加しました。日本の社会では3月、4月は引越シーズンですが、香港では9月から新学期が始まるので7・8月が引越シーズンになります。交流会の香港人メンバーたちが今度福岡に旅行するので、日本人の参加者が自身の福岡観光時の体験や、お気に入りのお店の情報をシェアしたり、人気の旅行スポットを検索したり、一緒に計画を立てました。



発足から約1年経ちましたが、オンライン交流活動で沢山の参加者が集まって、文化や国の状況・情報をシェアし、これからも学生部として、香港の魅力を日本・宮城へ、また宮城・日本の魅力を香港の若い世代に伝えていき努力してまいります。



OKINAWA

沖縄日本香港協会

沖縄日本香港協会

春節 役員昼食会・セミナー2023開催

沖縄日本香港協会と香港貿易発展局の共催による「春節役員昼食会・セミナー」が3月10日ホテル・コレクティブ那覇で開催されました。



春節 役員昼食会・セミナーの様子

当日は香港貿易発展局大阪事務所長のリッキー・フォン氏と事務局次長の田中洋三氏にも参加頂きました。

冒頭、沖縄日本香港協会副会長の淵辺美紀氏が、「昨年、香港は返還25周年を迎え、香港貿易発展局と沖縄日本香港協会と共催で、香港特別行政区設立25周年記念昼食講演会を開催致しました。新型コロナウイルス感染症の拡大により、3年近く香港との直行便が運休していましたが、昨年10月より運行が再開し、今後は、香港からの観光客の増加が見込まれると共に、香港とのビジネス交流の促進も期待されます。本日のセミナーが、香港と沖縄のビジネス・観光交流の一助になれば幸いです」と挨拶されました。

はじめに日本向け観光の香港における最大手の旅行会社であるEGLツアーの沖縄法人の社長である小島博子氏より、香港からの観光客の今後の動向について講話がありました。

小島氏は「香港人にとって、沖縄は日本でも有数の人気観光地でありまた香港に一番近い日本でもあります。コロナ禍で海外旅行ができなかったため、今後は着実に旅行需要が回復すると思われます。

しかしホテル業を中心に観光業全体で人手不足が顕在化しており、そのことによるサービスの低下が懸念されます。」と語りました。

その後、リッキー・フォン氏から香港から見た沖縄の観光の可能性について講話がありました。フォン氏は香港の富裕層の厚さと海外旅行の需要が高いこと、また香港で新たにグレーター・ベイ航空(GBA)が設立され香港・東京(成田)間に就航、新たな旅行需要を喚起する可能性について話しました。

「香港の富裕層は、単に観光地を訪れるだけではなく、

地元の食や文化に実際に触れ、特別な体験をできるアクティビティーは、必ず需要がある。富裕層を呼び込むためにも観光の幅を広げることが重要だ」と語りました。

香港からの観光客に新たに沖縄の食や物産に触れて頂き、香港に戻ってからも、購入頂くことにより更なる輸出拡大と沖縄の知名度拡大に繋がることが期待されます。

香港・沖縄の観光客の動向について

沖縄県においては、全国旅行支援などの後押しもあり、国内から沖縄への入域観光客数は、令和5年2月時点でほぼコロナ前の水準まで回復しています。また海外との直行便が再開され、海外からの観光入域者数も着実に増えています。

沖縄観光コンベンションビューローによると、令和5年3月時点で香港・沖縄間は、香港航空と香港エクスプレス航空合わせて、一日2便就航しており、香港・台北・ソウル仁川線共に搭乗率も順調に推移しているとのことです。コロナ禍以前、沖縄県の観光入域者数は年間1,000万人を超えていましたが、令和4年度は655万人と順調に回復しているとのことです。

また今年度も「香港ブックフェア」への参加も予定しており、香港からの誘客活動も引き続き展開していくとのことです。

一方、海外航空会社からは、路線復活もしくは増便の申し出があるとのことです。一方、海外航空会社からは、路線復活もしくは増便の申し出があるとのことです。空港のハンドリング係員の確保ができず、充分に対応できていないとのことです。



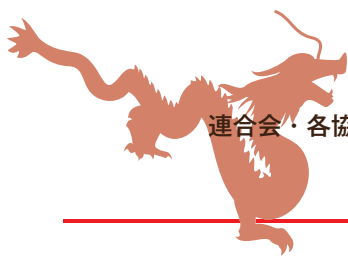
再就航し始めている那覇空港国際線

コロナ禍で沖縄の観光関連産業は、大きな打撃を受け、人材の流出も発生しました。コロナウイルス感染症の収束に伴い増加する観光客に対応する人材をいかに確保するかが重要であり、官民一体となった取り組みが望まれます。



大勢の利用者で賑わう国際線カウンター





「買取保証型テストマーケティング」 事業について

広島日本香港協会では、2022年度の事業において、県内企業の香港への進出支援プロジェクトとして、「買取保証型テストマーケティング」を実施しました。事前面談・商品輸送・インフルエンサープロモーション・ECサイトへの掲載・実店舗での販売・フィードバック面談のパッケージで支援しました。

2022年10月に参加企業の募集を行い、23社の申込がありました。当協会会員と香港への輸出が初めての企業を優先し、店舗運営事業者と現地バイヤーに、10社を選定いただきました。

また、事前面談において、店舗運営事業者と共にテスト商品の絞り込みを行い、最終的に17商品を取り扱うこととなりました。広島名産の牡蠣（冷凍）や瀬戸内のレモンを使用した調味料、日本酒、和菓子等、多種多様な商品を集めました。また、サンプル提供の可否についての協議やテスト商品以外の現地ニーズの見立てを行うなど、現地からの情報を提供しました。

商品輸送後は、さっそくマイクロインフルエンサーにInstagramで、商品写真の投稿やストーリーへの投稿を行っていただくなど、広島フェアをPRしました。2万9,000人のフォロワーを抱えるインフルエンサーの投稿に対し、400件を超える「いいね！」が寄せられました。Instagramからの商品購入も可能とし、購入申込みがあった際は、販売店舗より商品を配送することとしました。その他、ECサイト「NIHERO」への掲載を行い、Instagramと同様、店舗に行かずとも、購入できる仕組みとしました。

実店舗での販売では、香港島Quarry Bayに位置する日本食品専門店「はなとり」において、2022年12月21日～2023年1月20日の1か月間、テスト商品コーナー「広島の祭り」を設置し、販売しました。また、お店に来られた方にサンプル商品を試飲・試食していただき、その感想についてもヒアリングを行いました。

さらに、店舗での販売以外にも、スーパーでの様々なフェアに商品を持ち込み、現地バイヤーへ売り込んだり、興味を持ちそうなバイヤーへ直接折衝を行うなど、幅広く商品の紹介を行いました。

1か月間のテスト販売期間終了後、2月には参加企業

10社とのフィードバック面談を実施し、売れ行きやサンプルの試飲・試食のヒアリング結果を共有するとともに、適正価格の提示、パッケージデザインや商品の食感に対するアドバイスを行いました。



はなとり店舗外観

先に挙げた商品への評価やアドバイスについては、牡蠣は香港においても広島産の認知度は高く好評で、すべての商品が売り切れるとともに、現地バイヤーとの商談に繋がるなど、今後の展開が見込まれます。レモンを使用した調味料は、見た目の新鮮さや綺麗さから、17商品の中で一番多くの問い合わせがありました。粒のゼリー感がイメージと合致せず、販売結果には表れませんでした。日本酒は、熟成酒だったこともあり、通好みとの評価で、フルーティーで甘口が人気な香港では売り方が難しいとの評価でした。和菓子においては、現地での認知度も高くないことから、見ただけではどのような食べものか分からない、また、中に何が入っているか分からないため、見せ方の工夫を求められました。一方で味に関しては好評で、うまくPRすれば人気を獲得する商品となるかもしれません。

フィードバック面談では、良い評価だけではなく、現地の考えをしっかりと伝えたいと、改善策を提示し、参加企業にとって大変有意義なものになったと思われます。

広島日本香港協会では、2023年度も引き続き、香港への進出に向けた事業に取り組んでまいります。奮って、ご参加いただければ幸いです。



インスタ投稿画面



「広島の祭り」設置コーナー

コロナ後のインバウンドにおける 香港市場の現状と未来

新潟日本香港協会は、2013年に、日本で10番目の香港協会として設立されました。この10年間、その事務局業務を新潟市の地域商社である「愛宕（あたご）商事株式会社・旅行事業部」が担ってまいりました。地域に根差した旅行会社であり、新潟へのインバウンド誘客向けの専用サイト等も運営している立場から、アフターコロナのインバウンドに関する現状と、将来の見通しをレポートさせていただきます。

かつて、コロナ禍前の2019年には、訪日香港人は229万人を超え、2014年と比較すると約2.5倍に増加していました。また、2019年の訪日香港人は一人あたり15万5,951円を訪日旅行時に使っていました。さらに、2019年に訪日した香港人を年齢・性別ごとに見てみると、男女共に30代が大きな割合を占め、若くて、かつ購買意欲の旺盛な年代の人々が香港から数多く日本を訪れていました。

そして、訪日香港人のインバウンド市場で特筆すべき点は「7月と12月の訪日数が多い」「個人ごとの手配旅行が多い」「リピーター率が高い」の3つとされています。それぞれの理由等をこの後お伝えしたいと思います。それらが、今後復活が予想されている香港からのインバウンド誘客促進において大きなヒントとなり得ると思われれます。

1. 香港人は、日本に7月と12月に多く来訪する（この2か月で全体の約20%を占める）

訪日香港人が最も増加するのは7月と12月です。7月は香港の学校などが夏季休暇に入るため、家族旅行に来る香港人が多いと思われれます。また、冬でも気温の高い香港では日本の寒い冬や雪を体験したいと考える人が多く、年末年始を日本で過ごし雪や温泉、スキーなどを楽しむために来日しています。7月と12月の訪日香港人は訪日香港人全体の約20%を占めるため、日本の旅行会社が訪日香港人向けのインバウンド用のツアーの造成や募集を行う際は、7月と12月に重点的に販売する傾向があります。新潟県としては、豪雪や、スキー場・温泉の多さ等、冬の日本を体験できるコンテンツを多く有するため、旅行会社や旅館等の民間企業と県内自治体が連携し、新潟ならではの魅力を最大限アピールし、冬の香港からのインバウンドにおいて、「オーストラリアからスキー客が大量に訪れる北海道のニセコ」の様な立ち位置を目指しています。

2. 訪日香港人の約80%は個人手配旅行で来訪する（団体ツアーは少ない）

訪日香港人の約80%は個人手配旅行で訪日しており、これに個人客向けパッケージツアー商品を合わせると約

90%となります。団体ツアーで訪日する香港人は全体の3%と非常に少ないため、日本の旅行会社としては香港からのインバウンドにおいて個人旅行者に訴求できる販売・PRを強化することが効果的です。個人旅行者は自由度が高く現地での「コト消費」（モノではなく、形の無い体験等にお金を使う）に興味を持つ場合が多いため、例えば広東語を話せるスタッフを配置するなど、香港人向けのきめ細かいおもてなし体制の整備が今後の課題となります。

3. 訪日香港人の約90%がリピーターとなる（驚異的な高リピート率）

訪日香港人のリピート率は約90%と、直近の統計での主要20か国・地域の中でも最も高い率となっています。香港と日本は比較的距離が近く気軽に行けることや、香港人の平均収入は日本の平均収入を僅かに下回る程度であるため、金銭的な負担もなく日本に遊びに来られること、香港における観光庁などのプロモーションが功を成していることなどがこのような高いリピート率に繋がっていると思われれます。今後もリピーターを増やすべく、香港人をメインターゲットにしたインバウンド対策を続けることは、民間企業、自治体、双方にとって重要なポイントとなります。

また、香港からのインバウンドのお客様をお迎えする日本人として、知っておいた方が良いポイントがありますので、皆様にも共有したいと思います。

・香港人の性格・「国民性」 香港は東京都の半分程度の面積に人口と経済が密集している都市です。常に動きの早い社会で生活をしている香港の人々は、合理的で能力主義の考え方を持っている人が多いと言われていています。しかし一方で、香港の人々は家族や友達を大切に、また、一旦仲良くなると心を開いてくれる人が多いことも特徴だと思われれます。男性はレディーファーストの意識が高く、優しく気配りのできる人が多いと思われれます。一方女性も、日本と違い、女性が経営する企業も非常に多く、香港の社会では男女平等の意識が浸透しています。

・香港人の親日度・日本語学習者数 香港は2019年時点で「親日度ランキング」主要20か国・地域のうち6位となっており、親日度が高いことが分かります。また、国際交流基金「海外日本語教育機関調査」によると、香港には2015年時点で約70校の日本語教育機関と約500人の日本語講師が存在し、約2万2,000人が日本語を勉強しています。日本に対する関心や好感度が高いという事は、香港から日本へのインバウンドの更なる拡大を目指す上で、非常に重要なポイントだと思われれますので、官民両面で、今後も引き続き双方の友好関係を深めていければと思います。新潟日本香港協会としても、これまでの10年間を振り返り、これからの未来に向けて、更なる発展をしていけるよう、引き続き頑張っまいります。



積極的な活動の1年に

コロナも落ち着きを見せ、いい季節を迎えました。皆さまいかがお過ごしでしょうか。

過日3月16日には、高知協会主催の春節セミナーを開催し約30人の会員が久しぶりに集うことができました。講師にはリッキー・フォン香港貿易発展局大阪事務



春節セミナー懇親会風景

所長をお招きし、「香港の今とこれから～高知のインバウンド強化について～」のご講演を賜りました。大きな変革を迎えた香港、富裕層が暮らす都市ランキングでは、2021年時、世界第4位の位置から、2022年には《超》富裕層が暮らすランキングにおいて世界1位へと躍進しており、急速な経済の活性化がうかがえました。コロナ以前の2019年までは、香港からの訪日観光客は毎年順調な伸びを示しており、香港人の3人に1人はすでに日本を訪れたことがあり、今後は都市部から地方への移動が期待できるとしています。また、中国人観光客が買い物代に約5割を消費するのに対し、香港人は宿泊や飲食に5割以上を消費しているというデータもあり、飲食サービス関係の会員が多い高知協会としては、非常に期待できる数字を知ることができました。昨今の旅行者ニーズにおいては、ご当地でしか味わえることの出来ない例として、和歌山電鐵喜志駅のねこ駅長の活躍を紹介いただき、この可愛いねこ駅長に会いに来る海外観光客が後を絶たないほどの人気ぶりに驚きました。今後は、メモリーを作ること、香港では体験ができないこと等を創出し、リピーターを獲得すると共にリピート率をあげることが大切で、ご紹介いただいた、旅×ウェディング、工場見学・モノづくり体験、スポーツ観光などは、まさに高知の大きな資源でありますので、会員も大きな期待を寄せたところです。

また香港貿易発展局からは、日本香港間の無料エアチケットの活用のご提案も頂きました。コロナの影響で3



春節セミナー懇親会後に参加者と共に 今年は香港行くぞ！

年以上伺えてない我々にとって、非常に有難いご提案であり、失われた3年間を取り戻すべく、今後は積極的に香港に出向き、高知県が推し進める地産外商を念頭に、フォン大阪事務所長からご教授いただいた、香港では体験できない高知ならではのインバウンドプラン、また高知の皆さんには香港の魅力を存分に伝え、アウトバウンドやビジネスに繋げる役割として活動をしてまいりたいと思っております。

そしてこの困難な時期を乗り越え、3月15日になんと香港島セントラルに、高知のステーションという意味を持つ「高知駅」という名の日本食レストランがOPENいたしました！ 本協会、森本会長のビジネスパートナーであり、何度も高知に訪れているSteve Wongさんが、高知の食を扱い、高知のアンテナショップとなりうる店舗として全面的にご尽力くださりグランドオープンとなりました。高知のポスターやのぼりで店内外が高知一色！ 今後香港で唯一の高知色を全面に出した店舗として、高知をPRできる事を大変嬉しく思っており、香港の皆さん



セントラルに新しくOPENした「高知駅」

に高知を知っていただける大きなチャンスでもあります。私たち高知出身者としては、この上ない喜びであり、オーナーをはじめスタッフの皆さんには心から感謝を申し上げます。日本香港協会会員の皆様におかれましてもお近くにお越し



「高知駅」スタッフの皆さん

の際にはお立ち寄りください。

GWが明け、いよいよ日本も新しい生活スタイルとなります。今後は経済回復が最重要課題であり、観光やビジネスを中心とした人的交流が活発化されますので、高知協会としましても積極的な活動の1年となるよう最善を尽くしてまいります。

また2023年はビジネス研修旅行も企画いたしますので、その際には同志協会の皆さまのもとを訪ねるのを楽しみにしております。

素晴らしい新年度を迎えられることを心からご祈念いたします。



飛龍

URL <http://www.jhks.gr.jp>

日本香港協会全国連合会 電話 (03) 5210-5901
〒102-0083 千代田区麹町3-4 トラスティ麹町ビル6階
香港貿易発展局内

NPO法人日本香港協会(東京) 電話 (03) 5210-5870
〒102-0083 千代田区麹町3-4 トラスティ麹町ビル6階
香港貿易発展局内

関西日本香港協会 電話 (06) 4705-7030
〒541-0052 大阪市中央区安土町2-3-13 大阪国際ビルディング10階
香港貿易発展局内

中京日本香港協会 電話 (06) 4705-7030
〒541-0052 大阪市中央区安土町2-3-13 大阪国際ビルディング10階
香港貿易発展局内

九州日本香港協会 電話 (092) 260-3748
〒810-8629 福岡市博多区中洲2丁目6-10 株式会社ふくや内

山形日本香港協会 電話 (023) 665-1310
〒990-2301 山形市蔵王温泉丈二田752-2
ユニテ蔵王ジョーニダ・リゾート内

北海道日本香港協会 電話 (011) 261-4288
〒060-8661 札幌市中央区大通西3-7 北洋銀行国際部内

宮城日本香港協会 電話 (022) 226-7025
〒980-0021 仙台市青葉区中央1丁目6-18 山一仙台中央ビル8階
(株)Sola.com 内

沖縄日本香港協会 電話 (098) 8686-3758
〒900-0033 那覇市久米2-2-10 那覇商工会議所内

広島日本香港協会 電話 (082) 248-1400
〒730-0052 広島市中区千田町3-7-47 広島県情報プラザ3階
(公財)ひろしま産業振興機構 国際ビジネス支援センター内

新潟日本香港協会 電話 (025) 365-0001
〒951-8065 新潟市中央区東堀通一番町494-3 2階 愛宕商事株式会社内

高知日本香港協会 電話 (088) 855-9570
〒780-0056 高知市北本町4-4-7 パールマンション1301
株式会社オトルトル内

Hello Hong Kong

あたらしい発見が、あなたを待っている。



香港政府観光局

DiscoverHongKong.com

今すぐ検索！

📍ピクトリア・ハーバー

